

令和6年度第1回大野城市立中学校給食選択制度向上委員会（概要）

1. 日 時 令和6年7月24日（水） 午前10時～午前11時

2. 場 所 大野城市役所 本館3階 庁議室

3. 出席者等

（1）出席委員

- ・太宰委員長 ・萩尾副委員長
- ・井上委員 ・松本委員 ・村田委員
- ・渡邊委員（欠席） ・梅野委員（欠席）

（2）事務局

- ・教育政策課 光野課長、川口係長、小田原主任管理栄養士、菊地栄養士

（3）傍聴者

1名

（4）公開の可否

公開

4. 副委員長選出

委員が交代しているため、副委員長を選出した。太宰委員長の指名により、萩尾委員が副委員長に選出された。

5. 議題

- ・ランチ給食の喫食数等の状況及び喫食割合について
- ・ロゴマークのデザイン決定について
- ・令和5年度中学生の食事に関するアンケートの結果の分析について
- ・令和5年度中学生の食事に関するアンケートの他市との比較について

6. 議事

（1）ランチ給食の喫食数等の状況及び喫食割合について

《意見等》

特になし

（2）ロゴマークのデザイン決定について

《意見等》

萩尾委員 親しみやすい愛称やロゴマークができたので、小学6年生にも周知してほしい。

事務局 通知や試食会などを通じて、小学生にも周知していきたい。

井上委員 ロゴマークについて、大和中学校から選出され、校内でパネル掲示している。考案者本人も美術部として地域や学校に貢献できて喜

んでいる。このような機会をいただいてありがたいと思っている。

(3) 令和5年度中学生の食事に関するアンケートの結果の分析について

事務局 中学生の食事に関するアンケートについて、質問をクロス集計すると理解が深まるのではないかとのご意見をいただいたので、いくつかの項目について、結果を報告する。

《意見等》

委員長 結果の表示について、表だと直感的な理解が難しい。今後、分析の結果を表示するときは、グラフなどで表示したほうが良いと思う。

委員長 結果として、生徒では、選択制が良いと思う人のうち、小学校のような食缶方式を望む人が少ない一方、保護者は、選択制が良いと思う人のうち、食缶方式を望む人が多いという結果は、生徒と保護者で結果が逆転していて、興味深い。

保護者は、弁当を作ることが大変なので、なぜ全員給食ではないのかという意見もあると思うが、逆に生徒は選択制がよいと考えているということは、大切な事実であると考える。

委員長 分析結果の3つ目、生徒の「食事を作っている、手伝っている」と回答した約34%は（他の地域と比較して）多いと思うし、そのうち7割は「食事について考えている」、また5割は「自分で食事を作ることができる」ということは、自分の身体や栄養のことを考えられるということであり、把握しておくべき結果であると考える。また、発信（PR）していったよいものと思う。

保護者は、日々のお弁当作りで負担はあるかもしれないが、生徒は食育という面で、たしかに成長しているということは言えるだろう。

(4) 令和5年度中学生の食事に関するアンケートの他市との比較について

事務局 アンケート結果について、他の自治体と比較することで、本市の良いところや改善点などが明確になるのではないかと意見をいただいたので、インターネットでアンケートを公開している自治体から類似する質問項目を抜粋し、比較を行った。

《意見等》

村田委員 今回の報告した結果は、比較したアンケートの全部なのか。

事務局 説明した通り、他自治体の結果のうち、本市アンケートに類似した質問項目を抽出し結果を表示したものである。

村田委員 今回の報告結果は、大野城市に良好な結果ばかりと思ったが、そのような結果を抜粋して報告したのか。

事務局 前回の向上委員会の指摘では、他自治体と比較することで本市の

強みや改善点が明確になるという指摘だったので、その視点で資料作りを行った。今回資料作りをするうえで、インターネットでの検索、調査をした結果ではあるが、本市のネガティブな部分を示す結果は得られなかった。

委員長 表示しているもの以外で他に比較した項目はあるか。

事務局 インターネットで検索した範囲で見つけられた本市と合致した質問項目は今回示したものがすべてである。

井上委員 結果は、本市の良い面だけ抜粋した結果のようにも感じられたが、中学生の食事のアンケートは、他自治体では毎年実施しているものではないし、一般的に公開されているものでもないことが分かった。

今回の結果で、福岡県下の自治体（古賀市、福津市）と比較は本市の強みなどが分かる資料だと思う。

村田委員 朝食を食べる頻度として、「毎日食べている」割合が高いが、「週に2、3日・ほとんど食べない」では同程度となっている。食べていない子どもが心配である。

委員長 結果については、設問により選択肢を任意に区切られている。また、本市が「週2、3日」などの聞き方であるのに対し、他の自治体の選択肢は「あまり」や「どちらかといえば」という選択肢であり、感覚的なものになるため、この結果で比較可能な選択肢は「毎日」だけになると考える。

松本委員 （毎日食べる以外の回答について）中学生には部活動の朝練で朝食の時間が取れない時があるため、一定数はいると思う。

委員長 部活動の朝練は、全国どこでも同じ条件であるならば、統計的には考慮する必要ないと思う。

事務局 朝食の喫食は、重要であるため、指導は実施している。

委員長 今回の分析で、全国や他自治体との比較ができたと思う。今回の結果と選択制給食との因果関係まではわからないが、食事作りを手伝う習慣や、食事について考える習慣が他の自治体より多いという結果をもっとPRしてよいと思う。選択制給食の説明をするときに今回の結果を特に保護者向けに紹介してもよいと思う。

具体的に挙げるなら「バランスよく食べる」「心と体の成長や健康のため食材や食事について考える」は、他自治体と比較して良好な結果のため、PRすることが大事だと思う。

7. その他

・ 次回の開催について

事務局 10月～11月を予定している。